

## 体育における保育者養成プログラムの検討

著者	梅垣 明美, 晴山 紫恵子
雑誌名	浅井学園大学短期大学部研究紀要
巻	44
ページ	55-64
発行年	2006-03-24
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1136/00000769/">http://id.nii.ac.jp/1136/00000769/</a>

# 体育における保育者養成プログラムの検討

## An Examination of Kindergarten and Nursery School Teachers Training Programs in Physical Education

梅 垣 明 美 晴 山 紫 恵 子  
Akemi UMEGAKI Shieko HAREYAMA

### 1. は じ め に

2000年度以来減少傾向にあった全国の公立小中高校の校内暴力は、2004年度には増加に転じ3万1278件を数えるという（朝日新聞，2005）。今日、学級崩壊、いじめ、不登校、凶悪犯罪の低年齢化など子どもを取り巻く問題状況が深刻化する一方、教師の指導力低下が問題視されている。学校体育においては、授業時間の削減にみられるように、今まさに存続の危機にさらされており、体育の学習目標や学習内容の見直し、子どもに保障する学力の明確化など学校体育の存在意義を証明する様々な取り組みがなされている（高橋，2005）。

このような現状を踏まえると、教師養成課程を持つ大学の役割は大きく、教科の専門的知識と指導力を身につけた有能で実践力のある教師を養成するシステムの充実が求められるところである。今日、体育教師教育の流れとしては、実践的力量の形成に主眼を置いた取り組みがなされている。例えば、筑波大学体育学群では、平成9年度から職業領域を意識したカリキュラムが組まれ、保健体育教師を志望するコースでは、体育教師としての実践的力量の形成を意図した授業が開講されている（岡出ほか，2001）。また、愛媛大学では、実践的な指導力の育成を目的として、模擬授業を多く取り入れたカリキュラムがくまれている（日野，2003）。これらの先行実践の特徴をまとめると次の4つになる。①教材づくりを通して、教材開発能力を育成していること。②模擬授業を通して、授業の設計能力と授業の実践能力を育成していること。③授業観察を通して、授業の観察・分析能力を育成していること。④模擬授業後の反省検討会を通して、省察能力を育成していること。

本学こども学科では、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭の三つの免許資格が取得できる保育者・教師養成カリキュラムを編成している。特に、特徴的なのは、音楽、美術、体育の実技教科に重点が置かれたクラス編成によって保育者・教師養成が行われていることである。本学科の教育目標は、「幼児・児童の保育や教育及びこどもに関する諸問題に適切に対応できる技術や実践力を身に付けた人間性豊かな人材の育成」であり、実践的力量の形成という近年の教師教育の動向をみても実践力の養成に力点を置いている点では非常に評価できる。また、2005年度には、卒業後の進路を意識させた児童コース、幼児コース、保育コースの三コース制を導入しており、音楽、美術、体育という基礎技能を中核に据えながら各職種に応じた実践力を身に

つけることができるシステムに改変している。

本学科の在学学生を対象とした就職希望調査によると、将来希望する職業として、6割強の者が保育士と幼稚園教諭を、約2割の者が小学校教諭を希望している（出淵ほか，2004）。また実際に、卒業生の就職先も保育所や幼稚園が9割以上を占めている。これらの結果から、本学科においては、特に保育者<sup>注1)</sup>の実践力の養成が急務な課題といえる。しかし、小・中・高等学校の体育教師養成を意図した研究報告や実践事例（長谷川，2003. 賀川，2005. 佐分利，2005. 麻生，2005）はいくつか散見されるものの、保育者養成に関する実践事例は非常に少ない。

そこで、本稿では、2005年度に新たに開講された幼児コースに対応する教科「こどもと運動遊び」を対象に、保育者養成のための指導法を検討するため実験的な実践を試みた。体育教師教育の方向性として模擬授業などの指導場面の実体験が重視されているが、実際にそのような授業を行った場合、学生はどのように評価するのか、確認することを目的とした。実践力の養成は、本学科のカリキュラム全体にかかわる課題であるが、まず本授業を対象にプログラムの妥当性を検討することとした。授業展開時期が入学間もない1年次前期であることを考慮して、授業前半は教師主導型で授業を行い、授業後半は学生主導の模擬授業を実施し、授業後アンケート調査などにより、プログラムの妥当性を確認した。このことが2名の教員で担当する少人数制の授業として展開されたことも新しい試みである。

## 2. 方 法

### 2-1. 授業の概要

本学科1年生、体育専修クラス51名を対象に、2005年4月から7月にかけて「こどもと運動遊び」の授業を実施した。授業は、本学科専任の2名の教員が担当し、授業内容に応じて2つのグループを編成し、同時進行で指導した。授業の詳細は表1に示す通りである。

表1 「こどもと運動遊び」の展開

回目	授業内容：実技・実習		知識・能力
	グループ①	グループ②	
1	オリエンテーション、グループ分け、子どもの発育・発達について、運動遊びの意義について		子どもの発育・発達 運動遊びの意義
2	身体表現や変身を楽しむ運動遊び	競争を楽しむ運動遊び	
3	〃	克服や達成を楽しむ運動遊び	運動遊びのねらい 運動遊びの内容 運動遊びの指導法 運動遊びで育てる力 教材づくり 環境・場づくり
4	集団で楽しむ運動遊び	道具を操作する遊び	
5	〃	〃	
6	競争を楽しむ運動遊び	身体表現や変身を楽しむ運動遊び	
7	克服や達成を楽しむ運動遊び	〃	
8	道具を操作する遊び	集団で楽しむ運動遊び	
9	〃	〃	
10	指導計画の作成について グループ分け（保育士・年少組希望者と年長組・小学校希望者に分かれる）		指導計画の意義 指導計画の作成方法 指導計画の種類
11～ 14	模擬授業（保育士・年少組）	模擬授業（年長・小学校組）	指導計画の作成 授業の実践力 授業分析・授業評価 反省討論会
15	まとめ、アンケート調査及び認識テスト（学習活動の対象化）		省察能力の育成

## 2-2. 調査時期

プログラム実施前の4月上旬とプログラム実施後の7月下旬に運動遊びに関する認識テストを実施した(表2参照)。また、最終授業日の7月下旬には、アンケート調査を実施した。認識テストとアンケート調査の分析は、授業のすべてのプログラムに参加し、かつ資料の完全な学生42名を対象とした。

表2 認識テスト

運動遊びに関するテスト	
1. 下記の文章で正しいものには○を、間違いには×をつけなさい。	
( ) 小学校1年生で逆上がりができないのは、筋力がないからである。	
( ) 投動作は、男子よりも女子の方が劣ると一般的にいわれることがある。 それは、女子の方が男子よりも筋力がないからだ。	
( ) 幼児期は、神経系機能の発達が著しい。	
( ) 幼児期から筋力や持久力を養わなければならない。	
2. 幼児期に次のような運動を行うと、主としてどのような能力や感覚が育ちますか。	
鬼ごっこ…	
平均台の上を歩く…	
スキップ…	
的あてゲーム…	
かえるの足うち…	
ブランコ…	
3. 幼児期に運動遊びを指導する際にどのようなことに気をつけますか。	
自由に書いてください。	

(採点方法：質問1と2について正解であれば1点を与えた。質問2については、その運動を行うことによって養われる主な能力や感覚が書けていれば1点とした。)

## 2-3. 授業方法の工夫

### 1) 運動遊びに関する知識や指導法を提供する。

1回目から9回目までは教師主導で行い、運動遊びの指導に必要な知識や指導法を提供した。毎時間、子どもの発育・発達と運動遊びとの関係、運動遊びの内容、運動遊びの指導法や場づくり、運動遊びで育てる力などを書いた学習カードを用意し、必要に応じて学生に書き込ませた。知識や指導法を一方的に講義するのではなく、学生に運動遊びを実体験させながら学習カードの質問に回答するというスタイルをとった。

### 2) 指導計画の作成を通して、授業の設計能力を育成する。

10回目には、指導計画の作成について講義を行い、翌週指導計画を提出させた。指導計画は、各グループの担当教員が精読し、赤字修正したりコメントを加えたりして学生に返却した。不合格者については再提出させた。

## 3) 模擬授業を通して、教材開発能力と授業の実践能力を育成する。

11回目から14回目は、学生による模擬授業にあてた。模擬授業では、2～3人の小グループに分かれ、各グループが1つの指導計画を作成し授業実践した。その際、学生全員に教師、幼児・児童、観察者の役割を体験させ、模擬授業直後に短い検討会を実施した。検討会で話し合った項目は、表3に示す通りである。

表3 検討会での話し合った項目

授業展開について	教師行動について	教材づくり・場づくり・教具について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の流れはスムーズだったか。</li> <li>・マネジメントの場面は少なかったか。</li> <li>・学習規律に関する約束事が守られていたか。</li> <li>・学習時間は十分に確保できていたか。</li> <li>・個性的な自由な発想が保障されていたか。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の雰囲気はよかったか。</li> <li>・肯定的な働きかけがあったか。</li> <li>・説明はわかりやすかったか。</li> <li>・声の大きさ、話す速さは適切だったか。</li> <li>・子ども一人一人をよく観察できていたか。</li> <li>・適切なアドバイスやフィードバックが行われていたか。など</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階にあっていたか。</li> <li>・挑戦意欲をかきたてたか。</li> <li>・ゲーム化していたか。</li> <li>・やさしい技から難しい技へとステップが踏まれていたか。</li> <li>・十分な学習機会が確保できていたか。</li> <li>・育てたい能力や感覚が明確だったか。など</li> </ul>

## 4) 授業観察を通して、授業の観察・分析能力を育成する。

模擬授業において、授業観察者は、チェックリストを使って授業を観察し分析した。チェックリストは、日野ら（1996）が作成したチェックリストを参考にしながら、学生の実態と授業形態にあわせて作成した（表4参照）。

表4 授業観察のチェックリスト

こどもと運動遊び 模擬授業 評価表			
1. 次の項目について評価しなさい。			
評価基準	5：大変よくあてはまる	4：よくあてはまる	3：どちらともいえない
	2：あまりあてはまらない	1：全くあてはまらない	
①先生は、ほめたり励ましたりする場面を積極的につくっていた。	5	4	3
②学習のねらいやめあてが明確であった。	5	4	3
③年齢や個人の発達に合った学習成果が生み出されるような運動が用意されていた。	5	4	3
④学習資料（学習ノート、教具）の活用がみられた。	5	4	3
⑤楽しく学習できるような運動（場づくり、教材、学習課題）が用意されていた。	5	4	3
⑥子どもの笑顔や拍手、歓声などがみられた。	5	4	3
⑦移動や待機の場面（時間）が少なかった。	5	4	3
⑧一人あたりの身体活動の時間が十分に確保されていた。	5	4	3
⑨安全が十分に配慮されていた。	5	4	3
⑩今日の授業は総合的にみて「よい体育授業」であった。	5	4	3
2. 次の観点について、気づいたことを書きなさい。			
	良かった点	改善点	感想
授業展開			
教師行動			
教材づくり 場づくり・教具			

### 3. 結 果

#### 3-1. 運動遊びに関する認識テストについて

運動遊びについて、先述の認識テストの質問1と2では、子どもの発育・発達、運動遊びの指導、運動遊びのねらいに関する簡単な知識を確認した。結果は、表5に示す通りである。認識テストでは、プログラム実施後、有意な向上傾向が認められた。

表5 運動遊びに関する認識テストの結果

プログラム実施前 (n=42)	プログラム実施後 (n=42)	t 値
M (SD)	M (SD)	
4.26 (1.27)	6.86 (1.69)	8.91***

(\*\*\*p<0.001)

認識テストの質問3では、運動遊びの指導に関する知識を確認するため、「運動遊びの指導の際に気をつけること」を自由に書かせた。学生の記述を分析するために、本授業で目的とした学習内容、すなわち指導に関する知識、授業の設計能力・教材開発能力・授業の実践能力をもとに11のカテゴリーを設定した（表6参照）。学生の記述は、11のカテゴリーに基づいて分析された。例えば、「安全に注意する。子どもをよく観察する。簡単な運動から難しい運動へ

表6 「運動遊びの指導の際に気をつけること」に関する記述の分析結果 (n=42)

	カテゴリー	実施前 (回)	実施後 (回)	増減
	具体例			
1. 指導法について				
①安全面について	安全に注意する。怪我をさせない。	31	33	+2
②楽しませる	みんなで仲良く楽しませる。 とにかく楽しく遊ばせる。	16	18	+2
③技術指導	技のポイントをしっかり理解した上で指導する。一つの能力に偏らないようにいろんな能力を伸ばす。	0	5	+5
2. 授業展開について				
④マネージメント, 規律	授業の流れをスムーズにする。決まりを守らせる。 ふざけないようにさせる。	3	7	+4
⑤運動量の確保	運動の時間を多く取る。待ち時間を少なくする。 一人の運動回数を多くする。	0	2	+2
3. 教師行動について				
⑥肯定的な相互作用	上手く出来たらほめてあげる。必ず評価する。 適切なアドバイスをする。	1	13	+12
⑦声, 表情, 態度, 示範	大きな声で分かりやすく説明する。一緒に遊ぶ。 示範する。いつも明るく接する。	4	18	+14
⑧子どもの観察	一人一人をよく見てあげる。どの子にも目を配る。	0	6	+6
4. 教材づくりについて				
⑨発達課題, やさしい技から難しい技へ	発達段階に適した運動をさせる。 やさしい技から難しい技へ発展させる。	3	14	+11
⑩学習内容, めあて	ねらいを考えて教材をつくる。 どのような能力や感覚を育てるのか考える。	1	7	+6
⑪興味・関心, 個人差	一人一人にあった場を用意する。動物のまねをさせたり子どもの興味を引き出す工夫をする。	1	6	+5

とステップアップさせる。上手くできたときはほめてあげる。」という記述の場合、「安全に注意する」は1-①のカテゴリーに、「子どもをよく観察する」は3-⑧のカテゴリーに、「簡単な運動から難しい運動へステップアップさせる」は4-⑨のカテゴリーに、「上手くできたときはほめてあげる」は3-⑥のカテゴリーに数えた。

指導に関する知識について、プログラム実施前には、ほとんどが「安全に気を付ける」とか「楽しませる」という漠然とした内容のものだったのに対し、プログラム実施後には、授業展開、教師行動、教材づくりについて非常に具体的な内容を書いており、指導に関する理解が深まったことがわかる。

### 3-2. アンケート調査について

アンケート調査では、まず授業前後で運動遊びの指導に対する自信について聞いた。結果は、図1の通りである。

授業を受けたことにより約6割の者が指導に自信を持った。しかし、授業を通して、自信をつけた者は15名に対し、変化しなかった者が20名、逆に自信をなくした者が7名もいた。自信を持った者の感想としては、「授業を受ける前よりは指導に必要な知識を身につけることができた」、「指導計画の作成や模擬授業を通して直さないといけないところがわかり実習にも役立つと思った」などがみられた。一方、自信をなくした者は、「指導計画を書き、指導の難しさをした」、「模擬授業を通して指導の難しさをした。反省点をいかし、これからもっと勉強をしなければならないと思った」（傍点筆者）と指導計画の作成、模擬授業を通して運動遊びの指導の難しさを実体験し、今の自分の力不足と勉強不足を実感したようである。学生の感想、特に傍点箇所から明らかなように、学生は、指導計画の作成及び模擬授業を通して、自己反省し、今後の課題を発見している。このことから、指導計画の作成や模擬授業という実習が、学生に反省的思考を促すことにも非常に有効であったことが理解できよう。

今回は、15時間という時間の中で、運動遊びに関する知識や指導法などの学習と指導計画の作成や模擬授業などの実習を行ったため、学生たちの自信を改善することはできなかった。学

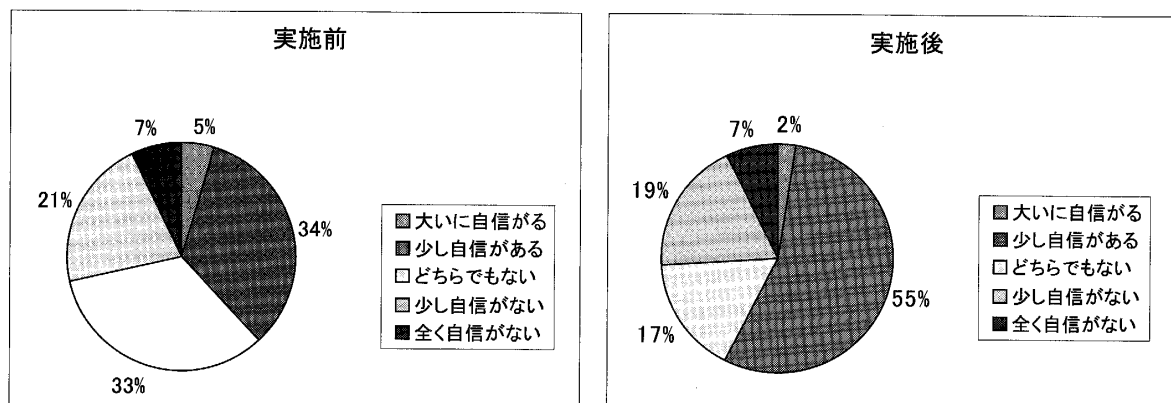


図1 プログラム実施前後の指導の自信

生たちの自信を改善するためには、「実技・理論の学習 → 模擬授業 → 反省・能力改善のための学習 → 模擬授業 → 反省・能力改善のための学習」というサイクルを何度か経験させることが必要だと思われる。2年生の前期には実習を経験するが、学生を子どもに見立てて指導する模擬授業と実際に幼児・児童を対象にする実習とでは、大きな違いが予想されるが、模擬授業などの実習体験の場をできるだけ多く提供し、実習前に計画実践力を十分に養うことが大切と思われる。

次に、「こどもと運動遊び」の授業が役立ったかどうかを確認するために、下記のような質問をしたところ、全員が「大いに役立った」と回答した。特に、何が役立ったかという質問に対しては、図2の結果が得られた。

質問2.「こどもと運動遊び」の授業は、指導者となるあなたにとって役立ちましたか。

- ア. 大いに役立った                      イ. 少し役立った                      ウ. どちらでもない  
エ. あまり役立たなかった              オ. 全く役立たなかった

\*アとイと答えた人は、次の質問に教えてください。  
授業の中で何が役立ちましたか。あてはまるものすべてに○をつけてください。

- ア. 学習内容について説明したプリント      イ. 学習カードへの書き込み      ウ. 毎時間行う運動遊び  
エ. 教具の準備・場づくり                      オ. 指導計画の作成                      カ. 模擬授業  
キ. 教師の説明                                      ク. その他

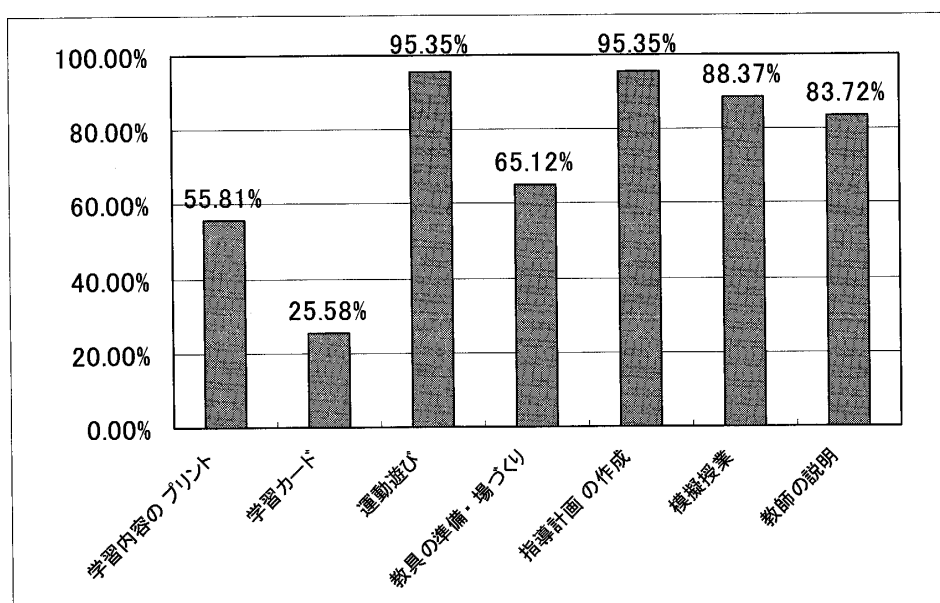


図2 授業の中で何が役立ったか

授業の中で役立ったこととして、ほとんどの学生が、毎時間行う運動遊びと指導計画の作成を挙げ、約8割以上の者が模擬授業と教師の説明を挙げている。これは、教師主導型で提供されるプログラムと同様に、学生主導型のプログラムである指導計画の作成や模擬授業を評価していることを意味する。少々残念なのは、学習内容について説明したプリントや学習カードへの評価が低いことである。運動遊びに関する知識については、認識テストの結果から授業を通



して向上していることは明らかであるが、今後、学生にとって役立つプリントや学習カードのあり方を検討する必要があるように思われる。

最後に、授業の感想を聞いた。代表的な感想をここに紹介したい。

○Sさん

「こどもと運動遊び」の授業は、とても実践的な授業だったので、本当に将来役立つようなことをたくさん学びました。運動遊びを体験することで子どもたちの気持ちがわかったし、指導計画の作成は本当に勉強になりました。反省するところがたくさんあったけど、よい経験になりました。

○Kくん

2人の先生がいる事から、一つの授業の中で大きく分けて2種類の運動遊びの方法を学べたことはとても良かった。他にも指導計画の作成や模擬授業などもこれから教師になるために必要なスキルをあげてくれたと思う。色々参考になることが他の授業に比べて多い貴重な授業だったと思う。やはり実践で使える事を多く学べたのがよかった。

○Hさん

指導計画を作成し、模擬授業を行うことがとても大変で苦労した。指導計画については書き方がわからず何度もやり直したり、模擬授業ではみんなの前で園児たちと接するようにやるのが恥ずかしくて、上手くできずに戸惑ったりもした。模擬授業をやったことで自分の未熟さや工夫の足りなさもわかったのでとてもよかったと思う。また、他の人の模擬授業を見たことで、良い点・悪い点も発見できたし、先生の説明もとてもわかりやすかった。今後とても役に立つ授業だったと思う。

○Yさん

小学校の低学年に指導する遊びでは、運動能力が少し高まったように思う。この体の動かし方はどのような感覚を育てるのかなど、今までわからなかったことも知識として増えたのでとてもよかった。幼児に指導する遊びは、これから保育士を目指す者にとって色々勉強になった。保育士になるのは甘くないんだって思いしらされた。この授業は、私にとって、自信をなくして落ち込んだ部分もあるけど、とっても大事なことをみつけた大切な授業だった。

学生の記述を、①運動遊び、②指導計画の作成、③模擬授業、④教師の指導及び説明の4つの項目から分析した結果、それぞれの項目を書いた者の人数は表7に示す通りである。授業を通しての感想を求めた結果、指導計画の作成と模擬授業について書いた者が多かったことから、学生のスキルアップに指導計画の作成と模擬授業がいかに重要な役割を果たしたかが推察できよう。

表7 感想文の分析結果

項目	人数(人)
運動遊び	10
指導計画の作成	23
模擬授業	21
教師の指導及び説明	7

## 4. ま と め

本稿を通して、学生が、保育者養成のためのプログラムとして、従来型の教師主導の授業で提供されるプログラム（運動遊びの実技学習、理論学習など）と同様、学生主導の実習型のプログラム（指導計画の作成や模擬授業など）を高く評価していることが明らかとなった。また、実習型のプログラムは、学生たちに、能力を自己評価させ、どのような力が不足しているのか、またどのように補うのかなど反省的思考を促すことがわかった。

しかし、本稿を通して、多くの課題が残された。第一に、実践力を養成するためには、15時間では限界があり、「実技・理論の学習 → 模擬授業 → 反省・能力改善のための学習 → 模擬授業 → 反省・能力改善のための学習」のサイクルを提供するカリキュラムを学科全体として検討する必要があること。第二に、実践力に関する評価法を開発する必要があること。実践力は、ペーパーテストだけでなく、模擬授業のような実践の場で評価されるべきで、実践に即した評価法が開発されなければならない。その為には、実践力の定義を明確にし、何を、どのように遂行できれば実践力が身に付いたと判断できるのかを明らかにしていく必要がある。第三に、幼児・児童とふれあう場を数多く提供すること。模擬授業は学生を対象としているためどうしても限界がある。その為、関連学園幼稚園や近隣小学校だけでなく広く学外に協力校を求め、1年次前期から現在実施されている観察授業の早期化、運動会や学芸会などの行事にボランティアとして学生の参加を義務づけるなど、学生が幼児・児童と触れ合う場や観察する場を数多く提供する工夫が必要である。これらの課題が今後の検討事項として明示された。

（付記）本研究は、文部科学省学術フロンティア推進事業の助成を受けて行ったものである。

## 注

注1）保育士、幼稚園教諭を総称して保育者とする。

## 引用・参考文献

- 1）朝日新聞．2005年1月28日付朝刊．
- 2）麻生和江（2005）小学校の体育を指導できる力の向上を目指した初等体育における授業内容（表現運動）－選択性15コマの事例として－．体育科教育学研究21（1）：39-42．
- 3）出淵誠，高野裕，晴山紫恵子，桑原雅子，水谷一郎，関谷正子，川村道夫，紺野忠一郎，谷本百子，林亨，星信子，菊池達夫，青池美紀（2004）小学校教諭及び保育者養成カリキュラムの検討その1－高校生・在学生（本科1年生）を対象とした調査－．北海道浅井学園大学短期大学部研究紀要43：69-85．
- 4）長谷川悦示（2003）大学における体育教師の養成カリキュラムの動向と課題．体育科教育

- 51（４）：22-25.
- 5）日野克博，高橋健夫ほか（1996）体育授業観察チェックリストの有効性に関する検討．スポーツ教育学研究16（２）：113-124.
- 6）日野克博（2003）より質の高い教員養成に向けた取り組み－模擬授業の実践から－．体育科教育51（４）：26-29.
- 7）賀川昌明（2005）運動実践者から運動指導者への意識変革を促す教科専門科目授業の試み－体育心理学，運動方法実習Ⅴ（バレーボール）の授業を通して－．体育科教育学研究21（１）：43-48.
- 8）岡出美則，米村耕平，小松崎敏，長谷川悦示，七沢朱音（2001）大学における模擬授業の展開－実践的指導力の育成をめざして－．学校体育54（１）：51-53.
- 9）佐分利育代（2005）小学校の体育を指導できる力の向上を目指した初等体育における授業内容（表現運動）－教員養成課程における現状－．体育科教育学研究21（１）：35-38.
- 10）高橋健夫（2005）これからの学校体育を構想する－体育科の基本的な役割を中心に－．体育科教育53（３）：14-17.